

日出生台で米軍訓練の やりたい放題を許してはならない

湯布院ミサイル問題ネット 鯨 津 憲 司

日出生台演習場で2026年6月に第11回目の日米共同訓練が前年に続き過去最大規模で強行され、東アジアの軍事的緊張をさらに高めることになりました。同演習場では昨年8月に続く今年4月の自衛官死亡事故など重大な問題が起きていて、政府の軍拡路線の歪みがあらわとなっています。語るべきことがいくつもあるのですが、ここでは在沖縄米海兵隊単独の移転実弾砲撃訓練（以下移転訓練）における追加兵器の問題が差し迫った課題としてあることからこれを報告します。

同演習場では、1999年に米海兵隊の移転訓練が開始され、これまでに16回実施されてきました。来年（27年）2月に予定されている17回目の訓練で重大な変化をもたらしかねない問題が今持ち上がっています。

【追加兵器問題】

九州防衛局は25年12月23日に、日出生台演習場問題協議会（大分

県、由布市、九重町、玖珠町で構成。以下四者協）に同演習場での移転訓練で新たな兵器（迫撃砲、ロケットランチャーなど「対装甲車両兵器」）を追加使用したいとの意向を伝えました。

「負担軽減のトリック」

四者協は新たな兵器の追加訓練は「何らかの負担軽減策が示されなければ受け入れは難しい」と表明しています。防衛省は四者協を懐柔しようとして

- ① 全体の訓練日数は変更しない
- ② 従来の155ミリ榴弾砲と追加兵器の訓練は同時に行わない（追加兵器の訓練日数だけ榴弾砲の訓練日数が減る）
- ③ 追加兵器の砲撃音は榴弾砲に比べ小さい（約1/2）
- ④ だから全体としては騒音が減少する
- ⑤ 従って周辺住民の負担軽減になる

との理屈を作り四者協の説得にかかっています。この理屈は201

0年に機関銃などの小火器導入の際にも用いられたトリックです。

音が大きいとされる榴弾砲の訓練日数を減らして、音がより小さいとされる迫撃砲などの訓練日に充てても、榴弾砲の1日の発射回数（密度）を増やせば全体としての大音量はむしろ増加することになります。現実には小火器導入後に榴弾砲の砲撃数が倍増したことがそれを物語っています。（グラフ参照）

そもそも、日米合意で本土移転の際に説明されたのは、榴弾砲のみの実弾訓練でした（同質・同量）。そこに新たな兵器を追加すると、それ自身が合意に反することになります。

「米軍が目論むのは

無制限の訓練」

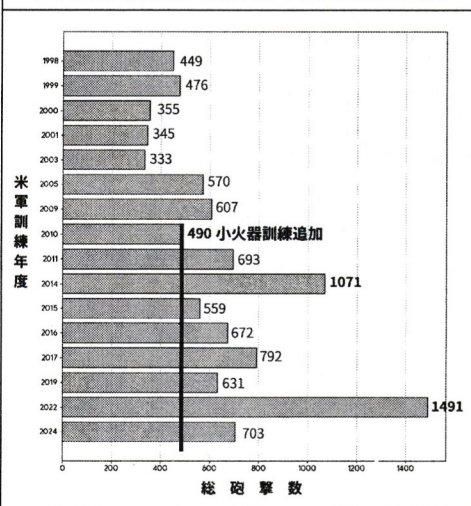
中国との軍事的緊張の拡大を念頭に、在沖縄米海兵隊の砲兵大隊は近年榴弾砲運用を縮小してハイマースなどのミサイル・ロケットの運用にシフトしてきました。米海兵隊は榴弾砲よりもその他の訓練を広い本土の演習場でやりたいのです。今

回新たな追加兵器を受け入れてしまえば、米海兵隊が次々と新たな兵器を導入する突破口となり、なし崩し的にやりたい放題の訓練を許すことになります。

私たちはこれを許さないために、県に対して新たな兵器訓練を受け入れないように交渉を持ち質問書や要望書を出していますが、県の反応はいまいなままです。大分県を軍拡と戦争の道への拠点とさせないためには、この問題での広範な県民の運動を作り上げていかなければなりません。

（湯布院駐屯地のミサイル問題についても触れたいのですが紙幅の都合でまたの機会に譲ります。）

小火器追加後に榴弾砲の射撃数は増加



平和を求める大分集会

「ミサイル弾薬庫はいらん!」

とき>8月30日(日)
10:00~

ところ> 敷戸西公園
(小雨決行)

11:00~ 大分分屯地への
申し入れ

連絡先>090-4583-8797
(池田)

第4回総会記念講演会

「菱山南帆子さん講演会」 高市改憲に立ち向かう光の闘い (仮)

とき>10月4日(日)
13:30~14:30 第4回総会
15:00~17:00 講演会 **無料**

ところ>アイネス 2F 大会議室

同日17:30~18:30

「ミサイルいらん!ペンライト集会」
ところ>大分駅北口広場(雨天中止)

問合せ>090-5025-4125 (阿南)

主催>大分敷戸ミサイル弾薬庫問題を
考える市民の会

今年2026年8月には1棟目の大型弾薬庫が完成予定。住宅や保育所が隣接する敷戸弾薬庫。ミサイルは人殺しの道具です。海の向こうの人の命を奪うだけでなく、弾薬庫があるため、私たちの命も標的になります。

私たち市民が望んでいるのは、穏やかな暮らし。誰もが食べることに困らず、平和に暮らしたいの

武器よりごはん!

敷戸弾薬庫(陸上自衛隊大分分屯地)に中国大陸まで届く長射程ミサイルを配備するための大型弾薬庫建設計画が公表されたのは2023年。9棟が建設されることになりました。

です。食糧、生活物資のほとんどを輸入に頼っている日本が戦争してどうなるのでしょうか。

武器より防災!

7月28日、熊本で最大震度7の地震が起きました。10年前の地震の教訓はどの程度活かされているのでしょうか?猛暑が続く、市民は大変な思いで避難生活をしてい

ます。

必要のない戦争準備に躍起となるよりも、肝心の国民の生命と生活を守る災害対策、災害救助活動にしっかりと力を入れるべきではないでしょうか。

大型弾薬庫建設、ミサイル配備に 断固として反対します!

demo 寄稿

お便り紹介

2026年2月8日の夜、私は絶望感に苛まれていた。高市政権のもと、大義なき解散総選挙で自民党が圧勝した。高市に好意的な若者や支持者が多数いることになったように感じ、世の中が灰色になつたように感じた。高市政権では、トランプに媚を売り、中国やイランとともにも外交ができない。国会を軽視し、日本に暮らす人々の生活を脅かす。その危機感は一日に増していった。

「石破やめるな」あたりから、東京で行われているデモが私の目にも入るようになった。その後もアメリカのイラン攻撃に反対するデモ、高市総理の政権運営を批判するデモが全国に広がっていった。そこにはたくさんの若者が参加していて、いつしかそれが私の希望になった。デモの開催日程を可視化する「デモカレンダー」というシステムも、福岡の一般市民により立ち上げられた。

4月8日、国会正門前で「平和憲法を守るための緊急アクション」。

デモカレンダーでは、それに連帯するデモ開催県に色がついていく。日本地図がどんどん色づいていく中、一週間前になつても大分県には色がつかない。なんとか大分県も連帯できないか。焦燥感にかられ、意を決してXで「大分でもしたい」と呟いてみた。すると、全国から後押しするコメントや「私も行く」といった声が次々に届き、とても勇気づけられた。しかし、デモなんてほとんど経験が

ない。相談する人もいない。呼びかけてみたものの、「果たしてどれだけの人が集まるのだろうか」「妨害されるのではないか」と不安が大きく膨らんでいった。いよいよ当日。私の心配をよそに、人通りの少ない真つ暗な大分駅北口には、200人近い参加者が集まった。

「戦争反対!高市やめる!憲法守れ!」自然にコールも発生した。国会正門前に連帯して、全国では48,552人の人がデモに参加していた。

ひとりじゃなかった。同じ気持ちを持った人がこんなにいる!4月8日は、私のデモ記念日になった。私はこれからも「正しく怒り」続けた。 (三毛)

私は誰かが言う「強い日本」など望みではありません。「幸せな国日本」を望みます。憲法議論が始まる前には必ず「自衛」や「安全」の名の下で始められます。私が危惧するのは現在の政治家達のほとんどが戦争を知らない人達ばかりです。あの焼け野原から僅か80年しか経っていません。1970年代、中曽根内閣で官房長官を務めた後藤田正義氏は戦争末期、徳島県の警察部長として空襲被害を目の当たりにした方で「戦争だけは絶対にしてはならない」と言う信念を貫いた方で、ある方の回想に、集団的自衛権の法案に対し「この法案は俺を殺してから通せ!」と言ったという逸話も聞いた事があります。(実話かどうかわかりませんが...)

先日テレビで高市総理が(憲法改正に「対し」「時は今!」などと言っておりました。何かが軍靴の音が聞こえて来る前ぶれのようなです。是非この世界に戻らぬよう祈ります。(中津市 M.Kさん)

戦争を選ばない国へ

先日、大分市でヘルパーさんが足りない、緊急集会が行われた。誰かの介助なしには生きられない人たちの切羽詰まった状況が語られ、何とか突破口を開こうと、国会へ向け動き出すことになる。

5年くらい前、大手のヘルパー派遣事業所が閉鎖や縮小を始めた頃から危機感を抱いたサービスマネージャーや周辺の関係者などが自治体や議会に働きかけ、一度は国会に届いたかに見えたが何の動きも始まらなかった。今回それでもなお国会に向けての動きを作り出すとしていくのは理由がある。

「誰もが安心して暮らせる社会」をなんとかして作らねばならないから。今から25年前、国は障害がある人々への政策を一大転換した。「施設から地域へ」「措置から契約へ」。それまでほとんどの人が行政の措置によって住む場所や利用できる制度を決められてきた。だからこの政策転換は本当に待ち望んだものだった。ようやく自分の人生を生きられると喜んだのもつかの間、2年もたたないうちに後退し始めた。理由は、国が想定していた予算を超えたから。この時障害福祉サービスマネージャーを利用していただいた人たちは「それは困る」と声を上げたが届かなかった。単に少数者の声だったからではな

い。世論の後押しがなかった。そのことが人の命に関わることであり、誰にも等しく認められている基本的人権が侵されることであるとの認識が一般市民の中に育っていない。私たちが心の奥深くにしみついていく優生思想の影響も大きい。ならば今回は全ての国民の問題として取り組もうと決めたのだ。

国は、国民の生命と財産は責任をもって守ると常日頃から言っている。そのために国家がある。

一人の例外もなく国が責任をもつて守る。根拠は日本国憲法。命を守るための国家予算を組むこと。間違っても殺すための国家予算は組まない。そんな国にしていきたい。もともと日本国憲法はそのような憲法であり、争うことをやめて話し合いで折り合いをつけていきましようという前文に書いてある。

そんなことを言ってももう遅いんじゃないの、という声が聞こえてきそうだけれど、どこからどのように始めても、どんなに弱い声であっても粘り強くたくさん集めれば力になる。今あちこちで動いている小さな運動が力を合わせることでできれば。

そのことを実現するために、そこら中の人たちと呼び掛けて人のつながりの渦を作り出したい。合言葉は「弱い人が安心して穏やかに生きてゆける国は戦争を選ばない」

(寄村仁子)

市民連続講座

第2回

「憲法と人権、改憲の動き」

講師>平松まゆきさん
(弁護士)

とき>9月12日(土)
13:30~

<第2回・第3回いずれも>

ところ>コンパル400号室 資料代>500円(大学生以下無料)
主催>憲法・教育基本法改悪に反対する市民連絡会おおいだ
連絡先>070-4088-0423 (永山)

第3回

「日出町のムスリム 土葬墓地問題から考える 多文化共生社会」

講師>田中 良太さん
(弁護士)

とき>12月12日(土)
13:30~

「(仮)若者と考える 平和と核軍縮」

とき>11月3日(火・祝)
10:00~

ところ>アイネス 2F **無料**

詳細は後日チラシ等で

主催>平和憲法を守る会・大分

連絡先>097-534-3436
(共同法律事務所)

『ダニーさんの気づき』 無料上映会

「平和のためにできること」

とき>9月27日(日)
13:30~15:30

ところ>荷揚BASE 6F
多目的ホール
(大分市役所隣)

主催>「ダニーさんの映画上映」
実行委員会

連絡先>090-5025-4125
(阿南)

東アジアでの戦争を止めるために 連続学習会

そのⅡ

「日本って今、 危ないの？」

~東アジアの「いま」を正しく知る~

講師>総田 芳恵さん
(APU教授)

とき>8月29日(土)
14:00~16:30

ところ>コンパル400号室
資料代>1,000円

そのⅢ

「韓国・光州事件と 日本社会について」

講師>鄭 敬娥さん
(大分大学教育学部教授)

とき>11月7日(土)
14:00~

ところ>コンパル 4F
視聴覚室

主催>私たちでつくる東アジア
の平和実行委員会

問合>090-4583-8797
(池田)

声に出して読んでみましょう憲法九条

『戦争の放棄、戦力の不保持、交戦権の否認』

①日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。
②前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

赤とんぼの会事務局 〒ハセ〇〇八四一 大分市六坊北町3番52号(変りました)
(TEL)090(1166)42118 (FAX)097(544)75003
(ホームページ)http://aka-tombo.com/ (郵便振込)0154400012160